



1 固い握手を交わす協力会の人と選手 2 協力会の人たちとハイタッチをして、鬼北を旅立つ 3 子どもたちが作った「みきゃんメダル」を贈呈 4 お世話になった協力会に向け、大会旗に寄せ書きをする選手団の皆さん 5 互いに別れを惜しむ 6 旅立つ選手団に向け、協力会からエールが送られる 7 バスで出発する選手を笑顔で見送る 8 バスが見えなくなっても手を振り続ける協力会の人たち

「これからも素敵な人生を歩んでね」などといった、家族としての温かい言葉が送られ、選手たちは「ホテルではなく、民泊で本当に良かった」「皆さんの応援がとても力になった」などと、感謝の思いを述べていました。選手や協力会の人の中には、涙で声を詰まらせる方が多数おられ、会場内は感動の渦に巻き込まれていました。

### 固く結ばれた絆

選手団が出発する日。見送りには多数の協力会の人たちが駆け付けました。

抱き合ったり、一緒に写真を撮ったり、他愛のない話をしてりと、最後の最後の瞬間まで別れを惜しむ選手や協力会の人たち。選手が乗り込んだ車が出発すると、「ありがとう」と言いながら、いつまでも手を振り続ける協力会の人たちの姿がありました。

出会って数日間とは思えないほど、密度の濃い時間を過ごした両者。この「民泊」での思い出は、選手団や協力会の人たちの胸に、深く刻み込まれたことでしょう。